

住宅建築賞

スモールハウスH (群馬県)

設計者 乾久美子
乾久美子建築設計事務所
建築主 エフ・フォー・ユー
施工者 (有)安松託建
(建物構造：鉄筋コンクリート造)

乾久美子 Kumiko Inui

1969年 大阪府生まれ
1992年 東京藝術大学美術学部建築科卒業
1996年 イェール大学大学院建築学部修了
1996～2000年 青木淳建築計画事務所
2000年 乾久美子建築設計事務所設立
2000～2001年 東京藝術大学美術学部建築科常勤助手
2006～2008年 昭和女子大学非常勤講師
2007年 新建築賞受賞
現在 東京大学非常勤講師、東京藝術大学非常勤講師、早稲田大学非常勤講師、京都工芸繊維大学非常勤講師



新しい建築型をもたらした作品であり、それをもたらしたプロセスも魅力的である。一見するとよくある別荘建築のように見えるかもしれないが、これはいかなる意味でも従来の別荘建築・住宅建築とは異質である。もともと同じ敷地内の農家3棟のうち1棟がすでに別荘として使われており、施主から「別荘の別荘」のような施設を求められている(別荘にたいする付属建築)。したがって農家3棟に備わっていないタイプのスペースを計画する必要があるが、プラン上では小さな四角い矩形を対角線で仕切り、極小の三角部屋を4つ作りだし、全てを部屋以前の「居場所」のようなスペースとして計画している。4つの居場所は人間1人のための居場所であるだけでなく、イームズチェア1脚のための居場所とか、美術品1点のための居場所としても計画されていて、展示室と倉庫と居室の中間をいくような不思議なスペース

群として構想されている。しかも、どの居場所も戸外の乱雑な風景を整理するような方位に向けられており、窓回りにはシュールなスケール感が与えられ、現実世界を1ミリだけ抽象化したような景観と向き合せている。外観的にはそうした不思議な居場所が4つ集まって、全体としてお家の形を成すというユーモラスなデザインである。

この不思議な付属建築は、通常ならば黙殺されてしまうような、我々設計者の常識と現実世界との食い違いをテコに作り上げられた作品である。非常に微細なところから建物の全体像を揺さぶるように設計していて、その変化を建築型という最も融通のきかないレベルに定着している。明らかに優れた作品であり、最大級の賛辞が贈られてしかるべきである。私としてはこの作品こそ金賞に値すると思う。(西沢大良)

